

登山月報

2011 アジアユース選手権……………	1
平成23年度遭難対策委員総会報告 ……	2
平成23年度全国山岳遭難対策協議会報告…	3
UAAA 2011 理事会報告 ……………	4
田中文男前会長退任慰労会報告 ……	7
連載 Mountain World 第33回 ………	8
JMA、寄贈図書、編集後記 ………	9

2011 アジアユース選手権シンガポールで開催 男子ジュニア藤井、ユースB是永、女子ユースC大場選手が優勝

《メダルを9つ獲得》

7月28日、29日、30日アジアユース選手権がシンガポールで開催された。来年2012年のワールドユースが同地で開催予定となっているため当初、今回のAYCHはそのプレ大会と位置づけられ、来年のWYCHと同会場、同じ壁が使われるというアナウンスが、当初IFSC_Asia内ではシンガポールからアナウンスされていた。

これまで特に欧州でのWYCHの場合、競技会場はEYS等で既に使われている常設壁であることが多く、すでに競技内外で登った経験のあるヨーロッパ勢に比べて、常に初見である日本は不利な条件を強いられ続けてきた。が、もし来年も同じ会場同じ壁なら、今年のAYCHを経験しておけば日本にとっては、チャンスのようにも思われた。

アジアユースには従来WYCHに出場できなかった選手を中心にチームを組むことが多かったが、今回はトップより順番に出場者を決めていった。

しかし最終的に発表された大会の公式案内によると、会場はとて来年WYCHを開催することは不可能と思われる屋外へと変更となっていた。



大会は13カ国より200名以上の参加者を集めるなど、これまでのAYCHでは最大規模。壁はすこしくたびれた、FRPの緩い壁が3面に、傾斜の強いものが1面と、昨今のユースのレベルの高さを考えれば、役不足の感はぬぐえない。しかも南国特有の暑さと高い湿度の中である。どのような大会になるのか不安になる。不安を増幅するように前夜のテクニカルミーティングでは、スタートオーダーが発表されない。まだ来ていないとのことだ。明日の朝までには宿泊先のホテルに届けてくれるという。選手には、なにがどうなってもあまり動揺するなど、

こういうものだからと伝えておく。確かに素晴らしい環境ではないが、条件はみなほぼ同じなのだから。

初日予選はフラッシュ2本。途中スコールによる2時間以上の中断が入ったため、すべてのカテゴリーが終了したのは照明の中であった。今回はコースC（日本でいうアンダー YB）もトップロープで実施された。

日本は出場 14 名全員が翌日の決勝に駒を進めることが出来た。日本チームより少し小規模な韓国にも予選落ちがいたくらいなので、予選の結果は本当に嬉しいことであった。

決勝はオンサイト、セミファイナルが省かれているため、各カテゴリーの決勝進出者は 10 名である。ここで日本チームは思わぬ弱さを露呈する。女子決勝に使われた壁が、緩い傾斜の FRP のパターン壁だったのだが、どうにも動きがスムーズでない。インドネシア勢などに比較して明らかに、ぎこちない感じなのだ。動きのかなり遅い子もいた。ここ数年のワールドユースでは、例えば今年のエンジンバラでも、緩い傾斜に上手く対応できず、跳ね返されるコースをかなり見てきている。日本ユースの弱点?? いや、そう言えば大阪の nambaHipscup でも日本勢はふるわなかった。ゆるい傾斜は日本特有の弱点なのか?? 一方、男子は、垂壁ではなかったため、みな生き生きと登っていた。

結果として、今回のアジアユースでは、日本は、9 名が表彰台に上ることが出来た。

一方過去 2 年、ベストメンバーで臨んだ世界ユースでは誰も表彰台に上ることが出来ていない。この現実を、このレベルの差をどうやって縮めていくのが課題なのだろう。今回は素晴らしい成績だと思うが、すぐ先の WYCH のことを思うと喜んでばかりもられない。

AYCH 2011 シンガポール 主な成績

1 位 3 名	男子 Jr 藤井快 男子 YB 是永敬一郎 女子 YC 大場美和
2 位 4 名	男子 Jr 羽鎌田直人 男子 YB 檜崎智亜 女子 YA 水口僚 女子 MB 小武芽生
3 位 2 名	男子 YA 古畑和音 女子 YC 田嶋あいか
備考	参加日本選手全員が決勝進出をした

ほか結果詳細 (IFSC リザルト参照) : http://www.ifsc-climbing.org/index.php?page_name=resultservice&comp=1362&cat=ICC_M_A

YC は IFSC の正式な年齢グループでないため IFSC の WEB サイトでの結果が確認できません。

(文 = 競技常任委員 小日向)

平成23年度遭難対策委員総会、研修会飛鳥で実施

遭難対策委員会の平成 23 年度の研修会と総会が奈良岳連の協力で平成 23 年 6 月 25 日から 26 日にかけて関西大学飛鳥文化研究所で開催された。25 日は研修会で全体進行は石田常任委員が行った。最初に奈良岳連藤本理事長より「奈良県における山岳遭難の現状」について報告があり、大都市に比較的近い山地での事故の増加が実感できた。続いて遭難対策副委員長である青山関西大学教授から「安全登山推進の現状—煩悶する日々—」「減遭難対策を考える」という基調講演があった。その後 3 つの分科会に分かれ遭難の現状や減遭難対策について討議した。A 班では次のような議論が行われた。

<各県の遭難現状>

三重：安易な遭難救助要請、軽装な登山者、ロープウェーの使用、家族連れ。

福井：登山は 5 件。うち 2 件は岳連が出動他は山菜取りほか、未組織・単独・県外が多い。出動は警察から地元山岳会へ要請。

静岡：救助隊は組織されていない。警察山岳救助隊、消防山岳警備隊を組織している。

へり救助が主で警察 3 台、消防 1 台保有。加盟団体は 29 と減少傾向。南アルプスの中高年の事故が多い。若い登山者も増えて来ている。中国、韓国人も増加。

奈良：遭対は活動していない。地元の旅館消防団、警察官が組織した遭対協が活動。遭難者は未組織が多い、他県の山岳会もあり。単独遭難者あり。

鹿児島：岳連としては動いていない。ここ数年遭難は増加傾向にある。地域山岳会が活動している。

韓国岳での小学生遭難が大きな問題となった。霧島高千穂峰での滑落事故 2 件。昨年、NPO 南九州山岳救助隊を結成。

岡山：研修会のみ開催、岳連としての救助は経験なし。組織連絡網を作ろうかと検討中。行政警察地元山岳会の訓練はしている。遭難件数は少ない。

宮崎：霧島、祖母山系にて発生。地元山岳会と警察が携わっている。

環境省レインジャーと各市町村にて遭難対策連絡協議会を作っている。昨年 300 名規模の捜索があった。未組織の遭難がとにかく多い。岳連としては救助訓練を強化。補償の問題は明確にしたい。

〈事故件数の増加について〉

- ・事故の内容が問題。本当に対応しなければいけない事故が増加しているのか、分析が必要。
- ・各人によって救助要請のレベルが異なる。素人ほど些細なけがで要請する。
- ・山岳会で教育を受けた人間は安易には呼ばない。
- ・警察の統計の内容を変えるのは難しい。
- ・未組織登山者を少なくするべきでは。
- ・未組織登山者に対する教育が必要ではないか。各岳連で一般対象の講習会は行っているのか。開催はまちまち。
- ・開催してもあまり集まらない。国民意識の問題があるのでは？ 法規制をかけたなら良いのでは。
- ・組織への取り込み、個人会員制度の促進。
- ・学生や一般人と日山協とのかわり方を考えたらどうか。敷居が高い。岳連を介さなくとも関係できないだろうか。イメージが固い。

総会は 26 日に行われ岩切常任委員が全体進行を行った。國松日山協副会長、藤本奈良岳連理事長、西内遭難対策委員長の挨拶で開会し、平成 22 年度事業報告、平成 23 年度事業計画の報告のあと、最初に町田副委員長から遭難対策常任委員会で実施したロープ強度試験報告の報告と、製品安全協会のトレッキングボールの規格見直し委員会の参加報告があった。今後も実使用に即した強度試験を継続する。(9月3～4日登山研で開催)

引き続き青山副委員長より U I A A 登山委員会の

報告と第 8 回山岳事故調査報告があった。大きな傾向は変わらないが、若年層の事故率が増加に転じたので注視する必要がある。行政や山岳団体が今もいろいろな対策を単発で行っているが、事故が増え続けており減遭難対策のためには違う視点や具体的な取り組みが求められている。遭難対策委員会は事故そのものは自己責任であるが、自己責任ということで何も対策をしないということではなく、自己責任がとれる教育と本質安全化の推進こそ減遭難対策であると考え、対策を立案推進していきたい。最後に研究協議について各班より発表があり、情報の共有化が図られた。昨年に続き班別で身近な事故事例についての討議を行ったため各都道府県の状況も把握できた。関西大学の飛鳥文化研究所は施設も食事すばらしく、有意義な研修会、総会となった。地元の奈良岳連に感謝したい。

【総会出席者】 國松嘉伸(副会長)、小野寺齊(事務局)、西内博、町田幸男、青山千彰、永井伸幸、渡部逸郎、瀬藤武、渡邊輝男、岩切貴乃、小池正器、下越田功、中丸忠男、大沼正博、宮永幸男、石田英行、町田雅美、一本松文夫(以上常任委員)阿曾清浩(山形)井春文(新潟)植松一好、中沢雄二(山梨)、岡田美智江(石川)増田利幸(福井)廣瀬修二、坂井田四郎(岐阜)前川朝夫(静岡)高橋優、吉村賢(愛知)佐藤信裕、居村年男(三重)竹村喜一郎(滋賀)藤本直民、前田善彦(奈良)香田隆史(鳥取)堀内輝章、新山まゆみ(広島)植野慎治(岡山)十河利雄(香川)戸高和義(福岡)長友利憲(宮崎)樋ノ口正光(鹿児島) (文 = 遭難対策委員長 西内博)



挨拶する國松副会長

平成23年度全国山岳遭難対策協議会報告

平成 23 年度全国山岳遭難対策協議会が 7 月 7 日(木)に代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催され、例年通り、全国から警察、消防、山岳関係者等 250 余名が参加した。

主催者を代表して文部科学省の嶋倉生涯スポーツ課長の挨拶のあと、日程に添って進められた。

報告 1 は、「平成 22 年度中における山岳遭難の概況」が警察庁の笠井地域課長補佐より報告された。平成 22 年度の発生件数は 1,942 件(前年対比+266 件)、遭難者数は 2,396 人(前年対比+311 人)、死者・行方不明者 294 人(前年対比-23)と死者・行方不明者を除き、昭和 36 年以降、過去最高

を示し残念ながら年々増加している。中高年者の発生状況は遭難者数で全体の 76.0%、死者・不明者は 90.1%と傾向通り高い比率で、態様別では、道迷い 970 人(40.5%)、滑落 402 人(16.8%)、転倒 309 人(12.9%)となっている。発生件数は増加しているが無事救出も 1270 人(前年対比+172 人)と増加している点の特徴である。

報告 2 は、「大津市消防局における山岳遭難対策の取り組み方について」と題して大津市消防局の重盛消防司令が報告された。大津市では特に比良山地においてヘリによるレスキューポイントが設置され、救助と道迷いの両方に役立っている。他と違う

ところは消防の方が自ら山に入り、設置し、その後の管理も継続されているということである。滋賀では山岳遭難の救助訓練なども警察、消防、山岳連盟が遭難対策協議会として協力して実施されたり、比良の登山情報をHPで公開したり、WEBで登山届けが提出できるようになっている。こうした協力関係の結果として比良の事故情報のデータベースが日本山岳サーチ&レスキュー研究機構の手でWEB公開されている。発表はされなかったがこうした努力の結果、平成22年度都市近郊の山岳では事故が増加したにもかかわらず滋賀では増加を防ぐことができています。

講義1は、「年代・性別・態様別にみた遭難とそのリスクの実態」と題し、静岡大学の村越真教授が行った。近年の遭難事故の特徴として50歳代を除き遭難事故が増加している。道迷いが全年齢とも顕在化している。無事救出が増加している点を指摘し、抽象的啓発から具体的なミニマムスタンダードとして地図とコンパスを持つ。体力をつける。道迷い遭難への対応として登山道のランク化：自己責任と管理責任、連続的なマーキング。さらにデータの収集と分析の必要性として年齢、エリアに応じた啓発と対策、発生場所の特性・データベース化を提言された。

講義2は、「遭難防止の取り組みと連携」と題して村越教授をコーディネーターとするパネルディスカッションが行われた。パネリストは報告2の重盛消防司令、登山研の渡邊所長、日山協の西内常務理事であった。重盛氏からは安全登山の基本を知らない遭難が多い。渡邊所長からは登山研は指導者を育成するところである。西内常務理事からは基本を知

らない一般登山者、登山客への教育の仕組み作りが必要などの意見が出され、村越氏が提言に基づきまとめられた。最後に「山岳遭難事故防止のために」というアピールを採択し、神崎日山協会長の挨拶で閉会した。

山岳遭難対策シンポジウムを開催

全国山岳遭難対策協議会終了後、同会場で社団法人日本山岳協会、日本勤労者山岳連盟の共催で山岳遭難対策シンポジウムが開催された。これは協議会で協議された山岳遭難を防止するための施策について、登山者および登山団体は遭難事故を防止するため具体的にどのように行動し、対策を進めればよいのかについて討議された。最初に関西大学の青山千彰教授が「減遭難対策を考える」と題して基調講演をされた。事故をなくすのではなく、事故の発生を想定して、その数と影響を軽減していくことが大切であるとし、道迷いを例に対策を提言された。

その後、青山氏を座長に「遭難防止のために登山団体は何をなすべきか」というパネルディスカッションが行われた。パネリストは静岡大学村越教授、登山研東専門官、ガイド協会磯野専務理事、労山川嶋事務局長、日山協西内常務理事であった。各パネリストの所属や立場から減遭難についてのそれぞれの考え方が示されたが、少しずつポイントが異なり、議論を深めることができなかった。会場からは各団体の考えに対する不満や批判もいくつか出された。ともかく、各山岳団体の連携を模索する上でもこのようなシンポジウムの開催は初めてであり、最初の一歩である。引き続き減遭難対策を目指して活動を継続する必要がある。(遭難対策委員長 西内記)

UAAA 2011年理事会出席報告

2011年6月17日～20日、モンゴルにてUAAAの理事会が開催され、八木原愷明副会長と小野寺齊事務局長が出席した。当日の参加国は日本の他、イラン3(夫妻1組)、台湾3名、中国2名、韓国2名、ネパール3名、香港1名、モンゴル数名、来年UAAA加盟予定のアゼルバイジャン2名である。モンゴルという国名は相撲の関係で良く知られているが、地理的には北はロシア、他は中国に囲まれており、文字はキリル文字だが、ロシア語とも違っている。我々を世話してくれたモンゴル山岳連盟のZayaさんはロシア語も話していた。国内では西にアルタイ山脈(最高峰4370m)、ハンガイ山脈(3500m程度)、東は草原、南は砂漠地帯になっており、さらに砂漠化が進んでいる。日本はモンゴル

の最大援助供与国であり、2004年11月に実施した世論調査では、「日本に親しみをを感じる」と答えた回答が7割を超えたほか、「最も親しくすべき国」として第1位になるなど、現在のモンゴル国はきわめて良好な対日感情を有する国となっている。とは言いながらもロシア、中国という2大国に挟まれ、バランスのある外交を目指しているようだ。現在の大統領4代目だが、その前の3代大統領のエンフバヤルさんは、今回の参加国を昼食に招いてくれた。

日本・中国・韓国の3国合同技術交流会について

会議の前に3国(日本、中国、韓国)の技術交流会について李さんと話をする。昨年のレスキュー交流については1ヶ月開催時期を誤って通知してしま

い申し訳なかったとのこと。この交流についてこちららは勝手にレスキュー関係と考えていたが、そうではなく、元々の話としては主催国が得意な分野を主体にして技術交流を行うことが目的だったとのこと。昨年中国は四川で開催したが、それは中国がレスキュー技術について行いたかったからで、本年は日本の番であるが、何を行うかは日本が決めればよい、とのこと。最先端の紹介というより交流が中心だと言っていた。従って開催の時期と内容については早いうちに連絡がほしいとのこと。恐らく11月頃になるだろうとの認識はお互いにあったが、とにかく早く決めて連絡してほしいとのことであった。

モンゴル国の取り組み・実情について紹介

17日はバスに分乗し、最初は予定通り体育館の中にあるクライミングボードを見学する。この時UAAA会長の韓国のInjeong Leeさん、事務局長のPaeさん、台湾そして主催国のモンゴルの方々にお会いする。韓国は別途多くの方々ツアーで来ていた。

その後、バスにてテルラジ (TERELJ) と呼ばれるウランバートルから東北東にある地域に向け出発する。その地域のホテルにて前述の3代大統領主催の昼食会が催された。この方はクライマーであり、この会議の後に予定されている合同遠征にも参加する予定とのこと。またモンゴルで最初の女性のエベレスト登頂者 (GANGAAMAA.B) も出席し、話の内容は終始エベレストのことであった。また日本の震災、津波のことについてもお見舞いの言葉を頂いた。

その後、付近の岩場に行き (草原の周りにちょっとした岩山が沢山ある)、さきほど体育館にいたクライマーの練習風景を見学する。

その日は全員 Ger に泊まる。翌朝は会議 (Council meeting) に間に合うように、ということでウランバートルに戻る。

Council Meeting

18日、モンゴル国立オリンピックセンタービル4Fで会議が行われた。10時30分、予定より1時間半遅れで、事務局長のPaeさんの司会で開始された。

最初は歓迎のあいさつが続き、参加国の代表一名にそれぞれ金メダルが授与された。さらに挨拶が続き、先ほど金メダルを授与された以外の出席者にGolden Starのメダルが贈られた。本題の前に山で亡くなった方への黙祷のあと、出席メンバーの紹介、Agendaの調整等が行われた。さらに前年の北京のGA-meetingの議事録の内容確認を行い、コーヒープレークとなった。

各国からの2010年の報告

日本 最初はJMAが指名された。実は、会議の前に準備したPPTファイルをモンゴルで準備したPCに入れようとしたが、うまくコピーできなかった。その後PaeさんのPCに入れたら問題なくコピー出来たが、冷や冷やした。JMA副会長の八木原さんが、震災援助に対するお礼を言い、その後小野寺がPPTにて震災・津波の写真、お見舞いに対する御礼から始まりローガンのピオレドール受賞、50周年記念の報告と出席の御礼、スポーツクライミングの大会への参加と優勝者、入賞者の報告、自然保護、青少年教室、指導者育成などについて報告した。作成資料は別途保存しています。

イラン 8000m超はカンチ (無酸素)、マナスル、ローツェそしてエベレスト登頂、次に女性だけのレーニン峰の報告があった。スポーツクライミングにおいては選手派遣と入賞者、ルートセッタープログラムなどの報告があり、力を入れているようであった。自然保護そしてポーランドとの洞窟探検の報告があった。

中国 当初中国語→韓国語→英語の順で翻訳したが、途中から直接に英語訳 (台湾のYuanさん) になった。文書としてはまとめてきていないとのことで、口頭報告になる。多くの山を抱えており、8000m峰、6000~7000m峰に分けて報告された。雪宝頂、ムズターグアタ、スークーニャンについても言及があった。8000mについては商売で来ている人、プロの人が多いとのことであった。青少年については、多くの大学がスポーツクライミングに力を入れているとのこと、しかし6000~7000mには金銭的にサポートしており、8000mはこれからになる。自然保護については、シシャパンマ、チョーオユーなど高山のベースキャンプの清掃に努力している。ロンドンオリンピックの後に2016年にはオリンピックの種目になるようにIOC/IFSCなどに働きかけていきたいとのこと。

台湾 10月に100周年を迎える。台湾には3000mレベル (注:3000m以上ではないと思う) の山が200座以上あり、多くの人で1日に100座以上登る計画を立てたいとのこと。

ネパール モンゴル国立山岳連盟60周年おめでとう。今度の合同遠征にも参加します。今年はネパールツーリスト年になる。エベレスト登頂者、ダウラギリI峰登頂者にはビザなしとしたい、10月のUIAA/UAAA参加者にはネパール航空運賃は半額としたい。テンジンとヒラリーのモニュメントをカカニの丘に作ることを考えている。

香港 小さい組織である。今までのMountaineering

Union から Mountaineering & Climbing Union に名称変更する。Mountaineering hiking のイベントを政府と一緒に進めている。

昼食の後、日本の被災者に対する黙祷も 10 秒と行うことで行ってくれた。

午後に到着したアゼルバイジャンの紹介があった。実際にはこの国は来年からの UAAA に加盟する予定でいる。

副会長国が収集した資料の統合報告

事前報告ということでレポートを提出していたが、そのまとめの報告がなされた。

1.Expedition 遠征 ネパール

資料を作成しており、それをみてほしいとのこと。こちらが提出した資料をそのまま掲載してくれた。日本と台湾とモンゴルのみの提出だったようだ。

2.Environment 環境・自然保護 イラン

これも資料を作成してくれた。同時に PPT を使って説明してくれた。提出した時は Word ファイルであり、写真も添付したが、写真は PPT のみで配布資料には掲載されていなかった。提出はモンゴル、台湾、韓国、労山、日山協、ネパールであった。

3.Youth 青少年 中国

残念ながら資料もなく、発表もなかった。

UIAA / UAAA 関係の報告

UIAA 関係の報告の後、UAAA の会計報告、Website の報告があった。会計報告では台湾の Yuan さんが資料を配布して報告を行った。特にパキスタンの洪水に対する義捐金について如何に寄与したか説明があった。Website については昨年、担当を決めたはずだ、アップデートも何もされていないとの指摘がありネパールが確認してみるとのこと。

UIAA/UAAA の 10 月の GA-meeting について

八木原副会長からも準備状況について質問がなされ、資料を基に説明があった。7 月までには Fix したいとのこと。今年はネパール観光年にあたり、トレッキングなど歓迎するとのこと。10 月 4 日～8 日が UIAA、9 日が UAAA の GA となる。本を作って配布したい、各々 20 冊 (20 種類) ほどで重くなる、とのこと。他は前述の通り。(この重い本とは 10 周年に作った物のこと、と思います。これが余っているので減らしたい)

さらに 2012 年の Council meeting についてイランが立候補を表明、台湾からは 2 年前も実施しており、また行いたいのですかと質問があり、台湾自身も立候補を表明、これについては 10 月の GA で決めたいとのこと。



HAT-J を HAT-Asia にしたい

特に表だって反対も賛成もなし。ただ、ネパールからは HAT-J が行っていることを同じ方式でどの国も行っているとの指摘があった。帰国して神崎会長に伝えます、ということでした承。

2014 年の UAAA 創立 20 周年記念行事

これを記念して日本の広島で開催したいとの提案。何故広島か、ということについては事前に神崎会長から言われていたアイデアを説明する。曰く、日本に来る海外の方は、さらに広島を訪問する、平和宣言都市などなど。しかし長老格の台湾の Yuan さんは広島という地名について知らなかった。原子爆弾を落とされた場所と言ってもよく分からなかったようだ。これについても賛成も反対もなく、Yuan さんは記念誌作成について、印刷物ではなく CD にしてほしいとのこと。記念誌については最近も作っており、作成するかどうかはまだ不明。

会長挨拶

韓国の Lee さんから、成功し、大変幸せとのこと。UIAA と UAAA は少し違って、前者はもっと討議が必要だが、後者は非常に近い関係にあるとのこと。MNMF の方々お世話になりました、カトマンズでお会いしましょう。気を付けてお帰りください、有難うございましたとの挨拶があった。

モンゴル国紹介と Welcome Party

19 日は全員で郊外に出かけ、チンギスハンの銅像がある地域に行く、足から頭までの高さは 43m とのこと。日本、ロシア、中国などから 500 人の人が参加して作り上げたとか。

夜はホテルにて Welcome party が開催、八木原副会長が乾杯の音頭を取り、全日程を終了した。
(事務局 小野寺齊記)

田中文男名誉会長・日山協会会長退任慰労会報告

さる6月25日(土)、さいたま市の浦和ロイヤルパインズホテルにおいて「田中文男名誉会長・日山協会会長退任慰労会」(主催:埼玉県山岳連盟、協賛:(社)日本山岳協会)が開催されました。

田中名誉会長は平成13年からこの平成23年5月に退任されるまで、実に10年間にわたり日本山岳協会の会長を務められました。これまでの功績は今更申し上げるまでもなく、組織や財政の強化はもとより、様々な登山活動の活性化や山岳競技発展への尽力、国際的要職の歴任などたいへんご活躍でした。さらにその間、我々埼玉県山岳連盟の会長としても多岐にわたる岳連活動をけん引し、2004年の埼玉国体や2度のクライミングW杯などを成功へと



導いています。これだけ山岳関係の多方面において要職を担い様々な事業をこなし、そして「社会福祉法人子供の町」では理事長として多くの子供達の面倒を見ながら、さらにはご自身の会社の経営。その公私にわたる激務ぶりはまさに驚嘆に値するものです。これまで本当にお世話になるばかりの我々でしたが、田中名誉会長の長年の御苦労に対する慰労と感謝の気持ちを込めて、今回このような会を開催させていただきました。

そして当日は本当にたくさんの皆様にお集まりいただき誠にありがとうございました。合計152名の皆様のご出席をいただき、準備段階では会場に入りきれなくなるのではないかと心配をさせられたほどでした。当初は県内関係者だけの予定で準備を始めたこの慰労会でしたが、日山協及び各方面との調整の中で徐々に門戸を広げていくこととなり、招待者の数も大きくふくれあがりました。結果として余裕のないスケジュールとなり参加者の方にもご負担やご迷惑をおかけすることになり、この場をお借りして深くお詫び申し上げる次第です。しかし結果的には各界を代表するそうそうたる皆様方のご出席を賜ることになり、あらためて田中名誉会長の人間関係の広さを感じさせられました。

開会后においては、当岳連の森下健七郎会長による、田中名誉会長の超人ぶりをあらわす経歴の紹介の後、たくさんのご祝辞をいただきましたが、日山協の新しい会長に就任された神崎忠男様からは「日山協の役員は素晴らしい陣容が揃っており、これから右上がりを続けて行くに違いありません。既成概念にとらわれず新しい日山協を作っていきたい。」

という力強いご挨拶がありました。また余興では、6年前の埼玉県岳連創立50周年記念式典でも披露された、秩父屋台囃子の勇壮な太鼓演奏が会場一杯に響き渡り、雰囲気も一気に盛り上がりました。そして埼玉県岳連からの花束と記念品の贈呈。ことに花束は、時には田中名誉会長以上の御苦労があったに違いない奥様へも贈らせていただきました。またプレゼンターは、田中名誉会長がかれこれ30年近く前、狭山ヶ丘高校の山岳部顧問をされていたときの山岳部員だった方で、今回の会のため栃木の那須町より駆けつけていただきました。そして田中名誉会長より謝辞。「こんなにも大勢の皆様にお越しいただき心より御礼申し上げます。そしてこれまで支えてくれた家内に何より感謝したい。また無事戻ってきた私を暖かく迎えてくれた埼玉県岳連にも感謝申し上げます。」とご挨拶されました。

無事慰労会も終え、これで田中名誉会長も様々な心労から開放され、ご自分の時間を持つことができるようになることと思います。まだまだ未熟な我々がこの先もご指導を仰ぐことがあるかもしれませんが、どうぞこれからはご自身のため、そして奥様のために貴重な時間や生活を振り向けていって下さることが岳連一同の願いであります。

最後になりましたが、この度の慰労会の開催にあたりお世話になりました関係者の皆様へ深く御礼申し上げますと共に、今後ともご指導いただけますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

(「田中文男名誉会長・日山協会会長退任慰労会」
実行委員長 天野賢一)

第33回 Mountain World

ナンガ・パルバットの怨念

池田常道

ラインホルト・メスナーが7月初め、つかの間東京を訪れた。8月6日に封切られるドイツ映画「ヒマラヤ 運命の山」(ヨゼフ・フィルスマイヤー監督)の宣伝を兼ねた来日で、彼はこの映画に原作を提供し、アドバイザーも務めている。わずか数日という短い滞在期間中に、記者会見、パーティ、個別メディアのインタビューなどをこなして帰国した。

映画のテーマは1970年に起こったナンガ・パルバット事件である。

当時25歳のメスナーは、弟のギュンターとともに、カール・マリア・ヘルリヒコフファー博士の率いるルパール壁遠征隊に参加し、南壁(正確にいえば南南東側稜)の初登攀に成功する。しかし、ロープも持たずに登った兄弟は、無理な登攀を敢行した弟の衰弱もあって、登りに採った急峻なメルクルリンネを降りることができず、反対(西壁)のディアミール側へ下る羽目に追い込まれた。苦労して基部の氷河まで降りてきたときギュンターは雪崩に吞まれ、兄だけが生還した。

メスナーは帰国後、誤った天候予測を伝えたり兄弟の捜索を怠ったりしたことでヘル博士を告発し、著書でも糾弾した。しかし、名誉棄損で逆提訴されて敗れ、91年にヘル博士が亡くなったあと遺族と和解が成立するまで長い間ナンガ・パルバットについて発言することを禁じられてきた。したがって、事件から40年近くたった2009年にこの映画が制作されたことは、メスナーがあらためて自分の見解を表明する機会を与えられたという背景による。メスナーは事件の翌年から何回となくディアミール谷を訪れて弟の遺体を捜索し、2000年と05年には、ギュンターのものともみられる遺骨の一部を収集している。また、02年には『ナンガ・パルバット 裸の山』を書き、裁判に負けて発禁処分を受けていた昔の著書『ナンガ・パルバットの赤いのろし』も10年に再版された。

*

さて、映画は、南チロルの岩山で岩登りの腕を磨いた兄弟が、長じて遠征隊に招かれるところから主

題に入っていく。じつは、弟のギュンターは初め招かれず、隊員枠に空きが生じたために加わることができたのだ。ペーター・ハーベラーはスキーのインストラクターをやるために渡米してしまい、ゼップ・マイヤールはローツェ・シャル隊に参加するため辞退したからだった。弟を推薦したのはメスナー自身だった。

ヘル博士が得意満面で登山報告しているスライドショーの会場に、凍傷の癒えぬメスナーが松葉杖について現れ、博士に反駁する。画面はそのつど実際の登山場面に切り替わり、ヘル博士の公式報告に対して、メスナーのいう「あのとき山で実際に起こったこと」が語られていく。

アタック前夜、無線機のない最終キャンプに天気予報を伝えるためにBCには赤青2種の信号弾が用意されていた。青(好天)ならルート工作に1日費やしてから協力して攻撃、赤(悪天)ならまずメスナーが自力で攻撃を試みる。ところが、ヘル博士が誤って赤を打ち上げたため、メスナーは緊急事態と察してひとり頂上へ向かう。このときギュンターもロープを投げ捨てて兄の後を追いつつ、ふたりはなんとか頂上に立ったものの、さきに記したような事情で下降できなくなり、ついにディアミール側へと向かう。そして、麓の氷河地帯まで来て離ればなれに歩いていた兄弟の運命を分かち悲劇に見舞われた。

*

メスナーは、インタビューでヘル博士のことを「映画で見ると強い人物ではなく、つねに不安を抱えている人だった」と語っている。が、カール・マルコヴィクス演ずるヘル博士は、メスナー役のプロリアン・シュテッターを食ってしまうほどの存在感で描かれている。メスナー自身も「この映画の影の主役は彼だ」と述べるくらいだ。

1953年にヘルマン・ブルがひとりで頂上攻撃を成功させて以来、ヘル博士は前後14回にわたってナンガ・パルバットに遠征隊を送り込み、そのうち82年の南東側稜まで11回は自ら隊長を務めた。ラキオト(53年)、ディアミール(62年)、ルパール(70年)と3つの壁にルートを開拓し、82年も南峰まで達してルートの目的地を付けた。1934年にこの山で逝った義兄、ヴィリー・メルクルの無念を晴らすため、時代時代のエースクライマーを起用して成果を上げてきた。それは、もともと本格的な登山家ではなかったヘル博士にとって、ある種の代償行為だったにちがいない。

日時 7月14日(木) 17:45～20:45
場所 岸記念体育会館 103会議室
出席者 神崎会長
内藤副会長、國松副会長、八木原副会長、松元副会長、尾形専務理事、西内、佐藤、石倉、高山、水島、相良、寺内、永井、堀井各常務理事
委任：仙石、北山、谷口常務理事(18名中15名出席)

1. 専門委員会動静

6月常務理事会以降
(6月10日～7月13日)

[報告]

(1) 競技委員会

6月16日(木) 出席者11名
ア 6月常務理事会報告
国体山岳競技規則集のダウンロード化案について
高校山岳部・クライミング部生徒の日山協登録について
イ リード・ジャパンカップ山口大会の報告と反省点
ウ ルート・セッター全国研修会について(8/11～13)
エ ジュニア・オリンピックカップについて(8/14～16)
オ 第2回全国高等学校選抜クライミング選手権大会について
全国高体連の共催事業に決定及び名称変更
カ WC 印西 2012 大会について
IFSC カレンダー 2012 の件
キ 2011 ジャッジ昇級者リストについて
ク トレイルラン小委員会の進捗状況について

ケ 国体後催島の準備状況について
山口県：第2回基準会議(リハール大会)報告、実施要項の最終確認
コ 公益法人化に向けた競技部の今後について
サ 平成24年度からの審判員、ルートセッター、競技運営員の登録・更新業務について
(2) 自然保護委員会
6月21日(火) 出席者17名
ア 5月常任委員会議事録確認
イ 常任委員研修会報告
・6/17～19、栗駒山山域、参加者20名
ウ 山岳団体自然環境連絡会報告(5/31、労山)
エ トレランWG報告
オ 震災ボランティア報告(継続調査)
カ 大山火山の地質と山地傾斜の崩壊要因による植生復元の取組みについて
キ 委員会の担務の確認について
ク 平成23年度自然保護委員総会について
ケ 公益社団法人日本山岳協会定款(案)について
コ 自然保護指導員認定新規2件(埼玉)、更新2件(埼玉)
サ 自然公園指導員被表彰者の決定について
シ 東電の尾瀬問題その後について
ス 山のECHO総会報告
セ 知床のヒグマ対策について
ソ 早池峰山の「携帯トイレ使ってみでけDAY」について

タ CONE制度への取組みについて
(3) 指導委員会
7月4日(月) 出席者10名
ア 6月常任委員会議事録確認
イ 指導委員総会報告
・公認スポーツ指導者表彰候補者推薦について
松下征文(滋賀)、湯浅誠二(京都)、伊澤則昭(長野)
ウ SC指導員養成講習会について
・千葉：19名、兵庫：23名
エ AC登攀技術研修会(10/15～16)について
オ 指導常任委員研修会(9/3～4)について
カ 講師養成研修会(11/12～13)
キ 指導者養成講習会及び更新登録講習会の実施申請状況について
ク 主任検定員の問題点について
ケ その他
・規約改訂集の正誤表について
(4) 医科学委員会
7月9日(土) 出席者5名
ア 6月常務理事会等の報告
イ 日山協支援事業についての報告
ウ UIAA MedComのテーマ「Non-Caucasian and High Altitude」について
エ UIAA MedCom Meeting 2011(スエーデン)の参加について
(5) 広報委員会
7月12日(火) 出席者5名
ア 広報への水島委員長提言について
イ 『登山月報』7月号の編集に

寄贈図書

●寄贈本●

『神山の山』青磁社刊
近藤栄昭(福島県郡山市大槻町
字室ノ木 69-1) 著

●雑誌●

東京新聞出版『岳人』8月号
山と溪谷社『山と溪谷』No.916

●会報●

兵庫県山岳連盟
大阪府立体育会館
FEDME
中華民国山岳協会
福岡山の会
(財)日本万歩クラブ
(財)健康・体力づくり事業財団
(独)日本スポーツ振興センター
横浜山岳会

(財)自然公園財団
大韓山岳聯盟
中国登山協会
(財)国立公園協会
(財)富山コンベンションビューロー
(財)ゲートボール連合
(財)全日本ボウリング協会
愛知県山岳連盟
大阪府山岳連盟
(社)日本武術太極拳連盟
高校生新聞社

FEEC
日本勤労者山岳連盟
日本山岳会
日本ヒマラヤアドベンチャートラスト
全国高等学校体育連盟
NPO日本オリンピック協会
東京野歩路会
日本山岳写真協会
新潟県山岳協会

JMA

守ります。美しい日本の山。

あなたの保険は、 安心して登山ができる保険ですか。

救助費用はタダではありません。

■平成21年山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成22年6月8日)

発生件数 **1,676** 件

遭難者数 **2,085** 人

死者・行方不明者 **317** 人

詳しくは → www.jma-sangaku.org

お問い合わせは

日本山岳協会 山岳共済会

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL: 03-5958-3396 FAX: 03-5958-3397

E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

ついて
自然保護常任委員研修会報告
(栗駒山)
第25回リード・ジャパンカップ報告
国際委員総会・海外登山遭難対策研究会報告
指導委員総会報告
遭対委員総会報告
U A A A 理事会報告
田中前会長慰労会報告(埼玉岳連)
Mountain World
JMA
(6)普及委員会
7月12日(火) 出席者5名
ア 23年度ジュニア育成事業の経過報告
イ ジュニア登山教室 in 立山の下見報告
ウ ジュニア登山教室 in 立山の準備状況
エ 中高年安全登山指導者講習会の準備状況
オ 第50回全日本登山体育大会(福岡)について
カ 個人会員アンケートについて
(7)国際委員会
7月12日(火) 出席者7名
ア 23年度国際委員総会報告
・6/18、芦安山岳館、19名参加
イ 海外登山遭難対策研究会報告
・6/18～19、芦安山岳館、42名参加
ウ U A A A 理事会報告
・6/15～20、
モンゴル・ウランバートル
エ 23年度常任委員について
オ 海外登山女性懇談会について
・12/6、アースプラザ
カ 海外登山奨励金制度の告知について

2. その他の重要事項

(6月10日～7月13日)

【報告】

- (1)財国土緑化推進機構へ賛助会員の退会届を提出 6月10日(金)
- (2)第31回日本登山医学会学術集会 6月11日(土)～12日(日)
於：国立オリンピック記念青少年センター 堀井常務理事
- (3)平成23年度指導委員総会 6月11日(土)～12日(日)

- 於：東京・晴海 神崎会長、永井、西内常務理事
- (4)全国山岳遭難対策協議会幹事会 6月13日(月)
於：文部科学省 西内常務理事
 - (5)JOC 総務委員会総会 6月14日(火)
於：岸記念体育会館 尾形専務理事
 - (6)神奈川岳連・インドヒマラヤ遠征隊壮行会 6月15日(水)
於：ワークピア横浜 神崎会長
 - (7)UAAA 理事会 6月15日(水)～20日(月)
於：モンゴル・ウランバートル 八木原副会長、小野寺事務局員
 - (8)「山の日」制定協議会 6月17日(金)
於：労山事務所 尾形専務理事
 - (9)「ジュニア登山教室 in 立山」打合せ 6月17日(金)～18日(土)
於：国立立山青少年の家、国立登山研修所 本木顧問、西内常務理事
 - (10)ISMF 総会 6月17日(金)～19日(日)
於：スペイン・バルセロナ 笹生常任委員
 - (11)平成23年度国際委員総会兼海外遭難対策研究会 6月18日(土)～19日(日)
於：南アルプス芦安山岳館 神崎会長、内藤副会長、佐藤常務理事
 - (12)平成23年度日体協定時評議員会 6月20日(月)
於：グランドプリンスホテル新高輪 内藤副会長
 - (13)山岳共済会保険の打合せ 6月21日(火)
於：事務局 藤岡(三井住友海上)、瀬田、尾形専務理事
 - (14)日体協国体委員会 6月22日(水)
於：岸記念体育会館 高山常務理事
 - (15)日体協夏季節電対策説明会 6月23日(木)
於：岸記念体育会館 尾形専務理事
 - (16)長野県山岳協会との協議 6月24日(金)
於：松本市 神崎会長、内藤副

- 会長
- (17)田中前会長慰労会 6月25日(土)
於：浦和ロイヤルパインズホテル 神崎会長ほか
 - (18)平成23年度遭難対策委員総会・研修会 6月25日(土)～26日(日)
於：奈良県明日香村 國松副会長、西内常務理事
 - (19)奥野幸道・参与(神奈川)逝去。享年89歳
 - (20)平成23年度三重県山岳遭難防止講演会 7月2日(土)
於：三重県庁講堂 西内常務理事
 - (21)「谷川岳の日」制定記念式典・山開き 7月2日(土)～3日(日)
於：谷川岳ロープウェイ山麓駅ベースプラザ 神崎会長、八木原副会長、尾形専務理事
 - (22)安全登山研修会講習会(新潟県山岳協会) 7月2日(土)～3日(日)
於：加茂市ビジターセンター 渡邊遭対常任委員
 - (23)東京都山岳連盟との協議 7月5日(火)
於：岸記念体育会館 神崎会長、内藤、松元副会長、尾形専務理事
 - (24)日本用品(株)創業60周年記念祝賀会 7月5日(火)
於：ホテルグランドパレス 神崎会長
 - (25)平成23年度全国山岳遭難対策協議会・シンポジウム 7月7日(日)
於：国立オリンピック記念青少年センター 神崎会長、尾形専務理事、西内常務理事
 - (26)山岳4団体懇談会 7月12日(火)
於：霜月好日 神崎会長、内藤、八木原副会長、尾形専務理事

3. 議事

- (1)平成23年度6月常務理事会議事録の承認について(承認)
- (2)IFSC W/C 印西大会2012開催について(条件付きで承認)
- (3)23年度国体(東北ブロック大会)助成事業について(一般会

- 計から支出することで承認)
- (4)臨時理事会及び常務理事研修会開催について(承認)
- (5)報告事項
 - ア 会計月次報告
 - イ UAAA 理事会報告
 - ウ 日体協公認スポーツ指導者表彰候補者について
 - エ 自然公園指導員被表彰者の決定について
 - オ 平成23年度専門委員会常任委員について
 - カ 平成23年度中高年安全登山指導者講習会(東部地区)の実施要項について
 - キ 公益社団法人への移行認定に向けた定款及び細則の変更案について
 - ク 長野県山岳協会の懸案事項について
 - ケ 国内旅行傷害保険包括契約特約について
 - コ 高体連登山専門部について
 - サ 中華民国山岳協会の東日本大震災義援募金について
 - シ 全国山岳遭難対策協議会・シンポジウムの報告

4. 役員等の派遣について

- (1)S C 指導者養成講習会
 - 7月16日(土)～17日(日)
 - 於：神戸市登山研修所 永井常務理事、西原、有枝、佐原競技常任委員
- (2)顧問懇談会 7月20日(木)(延期)
 - 於：岸記念体育会館 神崎会長、内藤、國松、八木原、松元副会長、尾形専務理事
- (3)消防防災ヘリコプターによる山

- 岳救助のあり方に関する検討会(第3回) 7月28日(木)
 - 於：経済産業省 西内常務理事
- (4)S C 指導者養成講習会
 - 7月30日(土)～31日(日)
 - 於：神戸市登山研修所 永井常務理事、西原、有枝、佐原競技常任委員
- (5)神崎忠男君を励ます会
 - 8月5日(金)
 - 於：プラザエフ 神崎会長、内藤、松元副会長、尾形専務理事 ほか
- (6)平成23年度全国高体連登山大会開会式 8月9日(火)
 - 於：岩木山総合公園体育館・北八甲田山系 神崎会長、高山常務理事(技術顧問)
- (7)「ジュニア登山教室 in 立山」
 - 8月10日(水)～13日(土)
 - 於：国立立山青少年自然の家、立山 神崎会長、内藤副会長、本木顧問、西内、仙石常務理事
- (8)ルートセッター全国研修会
 - 8月11日(木)～13日(土)
 - 於：南砺市桜ヶ池 CC 神崎会長、寺内常務理事
- (9)第14回 JOC ジュニアオリンピックカップ
 - 8月14日(日)～16日(火)
 - 於：南砺市桜ヶ池 CC 神崎会長、高山、北山、寺内常務理事
- (10)UIAA 医療部会
 - 10月18日(火)～23日(日)
 - 於：スウェーデン 堀井常務理事

5. 後援、協賛等の依頼について

- ア 日本山岳写真協会展「2011 山われらをめぐる世界」の後援

名義について(承認)
 ※後援名義料の検討について提言あり。

6. 報告

- (1)自然保護指導員の承認 なし
- (2)指導員の認定承認
 - 1) 上級指導員 なし 指導員 なし
 - 2) S C 主任検定員 なし

7. 通知、依頼、連絡、案内等 別紙の通り

8. 連絡事項

- (1)平成23年8月常務理事会
 - 8月4日(木) 17:30
 - (岸記念体育会館 103 会議室)
- (2)平成23年9月常務理事会
 - 8月27日(土) 10:30～ 泊り込み(多摩アカデミーヒルズ)
- (3)臨時理事会 8月28日(日)
 - 10:30～ (岸記念体育会館 101～103号室)

編集後記

ジュニア登山教室の立山登山でのこと、天候は今ひとつでしたが6羽の雛を連れた雷鳥に出会い子どもたちは大喜び！ 稜線の寒風と急坂に苦しみながらも皆、励ましあい頑張って登頂しました。「辛かったけれど楽しかった」「改めて仲間の大切さを味わった」「自然の美しさを実感した」などの声が聞かれました

(広報 本木 総子記)

ケータイ3キャリア・スマートフォンAndroidアプリ対応!

雨・カミナリを予測!
山の天気

暑さから身を守ろう!
熱中症

おでかけ前に要チェック!
紫外線

モバイルニュース
NHKニュース&スポーツ
今すぐアクセス

http://nhknews.jp/

登山月報 第509号

定価 100円(送料別)
 予約年間1,200円送料共
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月一回15日発行)

発行日 平成23年8月15日
 発行者 東京都渋谷区神南1の1
 岸記念体育会館内
 社団法人日本山岳協会

電話 03-3481-2396
 F A X 03-3481-2395